

# 初期臨床研修プログラム

## 【必修科目】

- 小児科 1 ヶ月
- 産婦人科 1 ヶ月
- 精神神経科 1 ヶ月
- 地域医療（ ① 、 ② ）

基本研修修了者の自由選択科目として各診療科における研修プログラムも含む

## － 小 児 科 －

### I プログラムの名称(1ヶ月)

帝京大学医学部附属病院小児科臨床プログラム

### II プログラムの目的と特徴

小児科学の基本的な診断、治療の知識および技能を習得することを目的とする1ヶ月のプログ

ラムである。

## 研修プログラム

### a 面接・指導

#### G I O

小児ことに乳幼児への接触、親（保護者）から診断に必要な情報を的確に聴取する方法および指導法を身に付ける。

#### S B O

- 1 小児ことに乳幼児に不安を与えないように接することができる。

### b 診察

#### G I O

小児に必要な症状と所見を正しくとらえ、理解するための基本知識を修得し、症状ことに伝染性疾患の主症状および緊急処置に対処できる知識を身に付ける。

#### S B O

- 1 小児の正常な身体発育、精神発達、生活状況を理解し判断でき、また身体測定、検温、血圧測定ができる。
- 2 小児の年齢差による特徴を理解できる。
- 3 小児の全身の観察から、その動作、行動、顔色、元気さ、発熱の有無、食欲の有無などから正常な所見と異常な所見を確認できる。
- 4 視診により、顔貌と栄養状態を判断し、発疹、咳、呼吸困難、チアノーゼ、脱水症の有無を確認でき、緊急な対処が必要かどうかを把握できる。
- 5 理学的診察により胸部所見（呼気・吸気の雑音、心音・心雑音とリズムの聴診）腹部所見（実質臓器および管腔臓器の聴診と触診）頭頸部所見（眼瞼・結膜、学童以上の小児の眼底所見、外耳道・鼓膜、鼻腔口腔、咽頭・口腔粘膜、とくに乳幼児の咽頭の視診）四肢（筋、関節）の所見を的確に行い、記載ができるようになる。
- 6 小児疾患の理解に必要な症状と所見を正しくとらえ、理解するための基本的知識を修得し主症状および救急の状態に対処できる能力を身につける。

### c 手技

#### G I O

小児ことに乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を身につける。

#### S B O

- 1 指導者のもとで採血ができる。
- 2 指導者のもとで、新生児、乳幼児の点滴注射、静脈注射ができる。
- 3 指導者のもとで、輸液、輸血およびその管理ができる。

d 薬物療法

G I O

小児用いる薬剤の知識と薬用量の計算法を身につける。

S B O

- 1 基本的な薬剤の使用法を理解する。
- 2 小児の年齢区別の薬用量を理解する。
- 3 年齢、疾患等に応じて輸液の適応を確定でき、輸液の種類、量を決めることができる。

e 臨床検査

G I O

病態を知り診断と病状の程度を確定するために必要な検査について、小児特有の検査結果を解釈できるようにする。

S B O

- 1 一般尿検査（尿沈さ顕微鏡検査を含む）
- 2 便検査（潜血、虫卵検査）
- 3 血算・白血球分画（計算板の使用、白血球の形態的特徴の観察）
- 4 血液型判定・交差適合試験
- 5 血液生化学検査（肝機能、腎機能、電解質、代謝を含む）
- 6 血清免疫学的検査（炎症マーカー、ウィルス、細菌の血清学的診断・ゲノム診断）
- 7 細菌培養・感受性試験（臓器所見から細菌を推定し培養結果に対応させる）
- 8 髄液検査（計算板による髄液細胞の算定を含む）
- 9 心電図・心超音波検査
- 10 脳波検査・頭部CTスキャン・頭部MRI検査
- 11 単純X線検査・造影X線検査
- 12 CTスキャン・MRI検査
- 13 呼吸機能検査・腹部超音波検査

f 成長発育と一般症候に関する知識の修得。

I 成長・発育と小児保健の拘わる項目

- 1 母乳、調整乳、離乳食の知識と指導
- 2 乳幼児期の体重・身長増加と異常の発見
- 3 予防接種の種類と実施方法および副反応の知識と対応法の理解
- 4 発育に伴う体液生理の変化と電解質、酸塩基平衡に関する知識
- 5 神経発達の評価と異常の検出
- 6 育児に拘わる相談の受け手として知識の修得

## II 一般症候

- 1 体重増加不良、哺乳力低下
- 2 発達の遅れ
- 3 発熱
- 4 脱水、浮腫
- 5 発疹、湿疹
- 6 黄疸
- 7 チアノーゼ
- 8 貧血
- 9 紫斑、出血傾向
- 10 けいれん、意識障害
- 11 頭痛
- 12 耳痛
- 13 咽頭痛、口腔内の痛み
- 14 咳・喘息、呼吸困難
- 15 頸部腫瘍、リンパ節腫脹
- 16 鼻出血
- 17 便秘、下痢、血便
- 18 腹痛、嘔吐
- 19 四肢の疼痛
- 20 夜尿、頻尿
- 21 肥満、やせ

## III 頻度の高いあるいは重要な疾患（知識の修得が望まれる疾患）

### (1) 新生児疾患

低出世体重児

新生児黄疸

### (2) 乳児疾患

おむつかぶれ

乳児湿疹

乳児下痢症

### (3) 感染症

発疹性ウイルス感染症（いずれかを経験する）麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、

伝染性紅斑、手足口病

その他のウィルス性疾患（いずれかを経験する）流行性鼻下腺炎、ヘルパンギーナ、インフルエンザ

急性扁桃炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎

(4) アレルギー性疾患

小児気管支喘息

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹

(5) 神経疾患

てんかん

熱性けいれん

(6) 腎疾患

尿路感染症

(7) 心臓疾患

心不全

先天性心疾患

川崎病

(8) 血液・悪性腫瘍

貧血

(9) 内分泌・代謝疾患

低身長・肥満

I プログラムの名称(3ヶ月)

帝京大学医学部附属病院小児科臨床プログラム

II プログラムの目的と特徴

小児科学の基本的な診断、治療の知識および技能を習得することを目的とする3ヶ月のプログラムである。

研修プログラム

a 面接・指導

G I O

小児ことに乳幼児への接触、親（保護者）から診断に必要な情報を的確に聴取する方法および指導法を身に付ける。

S B O

1 小児ことに乳幼児に不安を与えないように接することができる。

2 親（保護者）から発病の状況、心配となる症状、患児の成育歴、既往歴、予防接種などを要領よく聴取できる。

b 診察

G I O

小児に必要な症状と所見を正しくとらえ、理解するための基本知識を修得し、症状ことに伝染性疾患の主症状および緊急処置に対処できる能力を身に付ける。

S B O

- 1 小児の正常な身体発育、精神発達、生活状況を理解し判断でき、また身体測定、検温、血圧測定ができる。
- 2 小児の年齢差による特徴を理解できる。
- 3 小児の全身の観察から、その動作、行動、顔色、元気さ、発熱の有無、食欲の有無などから正常な所見と異常な所見を確認できる。
- 4 視診により、顔貌と栄養状態を判断し、発疹、咳、呼吸困難、チアノーゼ、脱水症の有無を確認でき、緊急な対処が必要かどうかを把握できる。
- 5 発疹のある患者では、発疹の所見を述べることができ、日常遭遇することの多い疾患（麻疹、風疹、突発性発疹症、しょう紅熱など）の鑑別ができるようになる。
- 6 下痢患児では、便の性状（粘液、血液、膿等）を説明できる。
- 7 嘔吐や腹痛のある患児では重大な腹部所見を説明できる。
- 8 咳をする患児では、咳の出かたと呼吸困難の有無とその判断の仕方を修得する。
- 9 痙攣や意識障害のある患児では、髄膜刺激症状を調べることができる。
- 10 理学的診察により胸部所見（呼気・吸気の雑音、心音・心雑音とリズムの聴診）腹部所見（実質臓器および管腔臓器の聴診と触診）頭頸部所見（眼瞼・結膜、学童以上の小児の眼底所見、外耳道・鼓膜、鼻腔口腔、咽頭・口腔粘膜、とくに乳幼児の咽頭の視診）四肢（筋、関節）の所見を的確に行い、記載ができるようになる。
- 11 小児疾患の理解に必要な症状と所見を正しくとらえ、理解するための基本的知識を修得し主症状および救急の状態に対処できる能力を身につける。

c 手技

G I O

小児ことに乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を身につける。

S B O（1～4は必ず経験すべきもの、5以降は望ましいもの）

- 1 指導者のもとで採血ができる。
- 2 皮下注射ができる。
- 3 指導者のもとで、新生児、乳幼児の点滴注射、静脈注射ができる。
- 4 指導者のもとで、輸液、輸血およびその管理ができる。
- 5 指導者のもとで、導尿ができる。

- 6 浣腸ができる。
- 7 指導者のもとで、注腸、高圧浣腸ができる。
- 8 指導者のもとで、胃洗浄ができる。
- 9 指導者のもとで、腰椎穿刺ができる。
- 10 指導者のもとで、新生児の、臍肉芽の処置ができる。

d 薬物療法

G I O

小児用いる薬剤の知識と薬用量の計算法を身につける。

S B O

- 1 基本的な薬剤の使用法を理解し、それに基づいて実際の処方と指示ができる。
- 2 小児の年齢区別の薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生物質を含む）を処方できる。
- 3 乳幼児に対する薬剤の服用、使用について看護師に指示し、親（保護者）に説明できる。
- 4 年齢、疾患等に応じて輸液の適応を確定でき、輸液の種類、量を定めることができる。

e 臨床検査

G I O

病態を知り診断と病状の程度を確定するために必要な検査について、小児特有の検査結果を解釈できるようにする。

S B O

- 1 一般尿検査（尿沈さ顕微鏡検査を含む）
- 2 便検査（潜血、虫卵検査）
- 3 血算・白血球分画（計算板の使用、白血球の形態的特徴の観察）
- 4 血液型判定・交差適合試験
- 5 血液生化学検査（肝機能、腎機能、電解質、代謝を含む）
- 6 血清免疫学的検査（炎症マーカー、ウィルス、細菌の血清学的診断・ゲノム診断）
- 7 細菌培養・感受性試験（臓器所見から細菌を推定し培養結果に対応させる）
- 8 髄液検査（計算板による髄液細胞の算定を含む）
- 9 心電図・心超音波検査
- 10 脳波検査・頭部CTスキャン・頭部MRI検査
- 11 単純X線検査・造影X線検査
- 12 CTスキャン・MRI検査
- 13 呼吸機能検査・腹部超音波検査

f 成長発育に関する知識の修得と経験症候・病態・疾患

I 成長・発育と小児保健の拘わる項目

- 1 母乳、調整乳、離乳食の知識と指導
- 2 乳幼児期の体重・身長増加と異常の発見
- 3 予防接種の種類と実施方法および副反応の知識と対応法の理解
- 4 発育に伴う体液生理の変化と電解質、酸塩基平衡に関する知識
- 5 神経発達の評価と異常の検出
- 6 育児に拘わる相談の受け手として知識の修得

II 一般症候

- 1 体重増加不良、哺乳力低下
- 2 発達の遅れ
- 3 発熱
- 4 脱水、浮腫
- 5 発疹、湿疹
- 6 黄疸
- 7 チアノーゼ
- 8 貧血
- 9 紫斑、出血傾向
- 10 けいれん、意識障害
- 11 頭痛
- 12 耳痛
- 13 咽頭痛、口腔内の痛み
- 14 咳・喘息、呼吸困難
- 15 頸部腫瘍、リンパ節腫脹
- 16 鼻出血
- 17 便秘、下痢、血便
- 18 腹痛、嘔吐
- 19 四肢の疼痛
- 20 夜尿、頻尿
- 21 肥満、やせ

III 頻度の高いあるいは重要な疾患

- (1) 新生児疾患

低出世体重児

新生児黄疸

(2) 乳児疾患

おむつかぶれ

乳児湿疹

乳児下痢症

(3) 感染症

発疹性ウイルス感染症（いずれかを経験する）麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病その他のウイルス性疾患（いずれかを経験する）流行性鼻下腺炎、ヘルパンギーナ、インフルエンザ、急性扁桃炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎

(4) アレルギー性疾患

小児気管支喘息

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹

(5) 神経疾患

てんかん

熱性けいれん

(6) 腎疾患

尿路感染症

(7) 心臓疾患

心不全

先天性心疾患

(8) リウマチ性疾患

川崎病

(9) 血液・悪性腫瘍

貧血

(10) 内分泌・代謝疾患

低身長・肥満

g 小児の救急

G I O

小児に多い救急疾患の基本的知識と治療手技を身につける。

G I O

1 喘息発作の重症度で判断でき、中等度以下の病児の応急処置ができる。

- 2 脱水症の程度を判断でき応急処置ができる。
- 3 痙攣の応急処置ができ、また鑑別診断ができる。
- 4 酸素療法ができる。

I プログラムの名称(8ヶ月)

帝京大学医学部附属病院小児科臨床プログラム

II プログラムの目的と特徴

小児科学の基本的な診断、治療の知識および技能を習得するとともに医師として社会的責任および役割を認識し、これに必要な基本的態度を身に付けることを目的とする8ヶ月のプログラムである。

研修プログラム

a 面接・指導

G I O

小児ことに乳幼児への接触、親（保護者）から診断に必要な情報を的確に聴取する方法および指導法を身に付ける。

S B O

- 1 小児ことに乳幼児に不安を与えないように接することができる。
- 2 親（保護者）から発病の状況、心配となる症状、患児の成育歴、既往歴、予防接種などを要領よく聴取できる。
- 3 親（保護者）に対して、指導医とともに適切な病状を説明し、療養の指導ができる。

b 診察

G I O

小児に必要な症状と所見を正しくとらえ、理解するための基本知識を修得し、症状ことに伝染性疾患の主症状および緊急処置に対処できる能力を身に付ける。

S B O

- 1 小児の正常な身体発育、精神発達、生活状況を理解し判断でき、また身体測定、検温、血圧測定ができる。
- 2 小児の年齢差による特徴を理解できる。
- 3 小児の全身の観察から、その動作、行動、顔色、元気さ、発熱の有無、食欲の有無などから正常な所見と異常な所見を確認できる。
- 4 視診により、顔貌と栄養状態を判断し、発疹、咳、呼吸困難、チアノーゼ、脱水症の有無を確認でき、緊急な対処が必要かどうかを把握できる。
- 5 発疹のある患者では、発疹の所見を述べることができ、日常遭遇することの多い疾患（麻疹、風疹、突発性発疹症、しょう紅熱など）の鑑別ができるようになる。

- 6 下痢患児では、便の性状（粘液、血液、膿等）を説明できる。
- 7 嘔吐や腹痛のある患児では重大な腹部所見を説明できる。
- 8 咳をする患児では、咳の出かたと呼吸困難の有無とその判断の仕方を修得する。
- 9 痙攣や意識障害のある患児では、髄膜刺激症状を調べることができる。
- 10 理学的診察により胸部所見（呼気・吸気の雑音、心音・心雑音とリズムの聴診）腹部所見（実質臓器および管腔臓器の聴診と触診）頭頸部所見（眼瞼・結膜、学童以上の小児の眼底所見、外耳道・鼓膜、鼻腔口腔、咽頭・口腔粘膜、とくに乳幼児の咽頭の視診）四肢（筋、関節）の所見を的確に行い、記載ができるようになる。
- 11 小児疾患の理解に必要な症状と所見を正しくとらえ、理解するための基本的知識を修得し主症状および救急の状態に対処できる能力を身につける。

c 手技

G I O

小児ことに乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を身につける。

S B O（1～4は必ず経験すべきもの、5以降は望ましいもの）

- 1 指導者のもとで採血ができる。
- 2 皮下注射ができる。
- 3 指導者のもとで、新生児、乳幼児の点滴注射、静脈注射ができる。
- 4 指導者のもとで、輸液、輸血およびその管理ができる。
- 5 指導者のもとで、導尿ができる。
- 6 浣腸ができる。
- 7 指導者のもとで、注腸、高圧浣腸ができる。
- 8 指導者のもとで、胃洗浄ができる。
- 9 指導者のもとで、腰椎穿刺ができる。
- 10 指導者のもとで、新生児の、臍肉芽の処置ができる。

d 薬物療法

G I O

小児用いる薬剤の知識と薬用量の計算法を身につける。

S B O

- 1 基本的な薬剤の使用法を理解し、それに基づいて実際の処方と指示ができる。
- 2 小児の年齢区別の薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生物質を含む）を処方できる。
- 3 乳幼児に対する薬剤の服用、使用について看護師に指示し、親（保護者）に説明でき

る。

- 4 年齢、疾患等に応じて輸液の適応を確定でき、輸液の種類、量を決めることができる。

e 臨床検査

G I O

病態を知り診断と病状の程度を確定するために必要な検査について、小児特有の検査結果を解釈できるようにする。

S B O

- 1 一般尿検査（尿沈さ顕微鏡検査を含む）
- 2 便検査（潜血、虫卵検査）
- 3 血算・白血球分画（計算板の使用、白血球の形態的特徴の観察）
- 4 血液型判定・交差適合試験
- 5 血液生化学検査（肝機能、腎機能、電解質、代謝を含む）
- 6 血清免疫学的検査（炎症マーカー、ウイルス、細菌の血清学的診断・ゲノム診断）
- 7 細菌培養・感受性試験（臓器所見から細菌を推定し培養結果に対応させる）
- 8 髄液検査（計算板による髄液細胞の算定を含む）
- 9 心電図・心超音波検査
- 10 脳波検査・頭部CTスキャン・頭部MRI検査
- 11 単純X線検査・造影X線検査
- 12 CTスキャン・MRI検査
- 13 呼吸機能検査・腹部超音波検査

f 成長発育に関する知識の修得と経験症候・病態・疾患

I 成長・発育と小児保健の拘わる項目

- 1 母乳、調整乳、離乳食の知識と指導
- 2 乳幼児期の体重・身長増加と異常の発見
- 3 予防接種の種類と実施方法および副反応の知識と対応法の理解
- 4 発育に伴う体液生理の変化と電解質、酸塩基平衡に関する知識
- 5 神経発達の評価と異常の検出
- 6 育児に拘わる相談の受け手として知識の修得

II 一般症候

- 1 体重増加不良、哺乳力低下
- 2 発達の遅れ
- 3 発熱
- 4 脱水、浮腫

- 5 発疹、湿疹
- 6 黄疸
- 7 チアノーゼ
- 8 貧血
- 9 紫斑、出血傾向
- 10 けいれん、意識障害
- 11 頭痛
- 12 耳痛
- 13 咽頭痛、口腔内の痛み
- 14 咳・喘息、呼吸困難
- 15 頸部腫瘤、リンパ節腫脹
- 16 鼻出血
- 17 便秘、下痢、血便
- 18 腹痛、嘔吐
- 19 四肢の疼痛
- 20 夜尿、頻尿
- 21 肥満、やせ

### Ⅲ 頻度の高いあるいは重要な疾患

- (1) 新生児疾患
  - 低出世体重児
  - 新生児黄疸
- (2) 乳児疾患
  - おむつかぶれ
  - 乳児湿疹
  - 乳児下痢症
- (3) 感染症
  - 発疹性ウイルス感染症（いずれかを経験する）麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病
  - その他のウイルス性疾患（いずれかを経験する）流行性鼻下腺炎、ヘルパンギーナ、インフルエンザ、急性扁桃炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎
- (4) アレルギー性疾患
  - 小児気管支喘息
  - アトピー性皮膚炎、蕁麻疹

- (5) 神経疾患  
てんかん  
熱性けいれん
- (6) 腎疾患  
尿路感染症
- (7) 心臓疾患  
心不全  
先天性心疾患
- (8) リウマチ性疾患  
川崎病
- (9) 血液・悪性腫瘍  
貧血
- (10) 内分泌・代謝疾患  
低身長・肥満

g 小児の救急

G I O

小児に多い救急疾患の基本的知識と治療手技を身につける。

S B O

- 1 喘息発作の重症度で判断でき、中等度以下の病児の応急処置ができる。
- 2 脱水症の程度を判断でき応急処置ができる。
- 3 痙攣の応急処置ができ、また鑑別診断ができる。
- 4 酸素療法ができる。

h 新生児・未熟児に関する知識の修得と経験すべき診察、手技、検査

G I O

新生児・未熟児の生理と疾患を理解し、必要に応じて適切にNICUへ搬送することができる。

S B O

- 1 新生児に特有な状況および疾患を理解し、主治医として判断および治療ができる。
- 2 未熟児・低出生体重児の保育法の基本を知り指示ができる。
- 3 新生児の採血と点滴手技、蘇生術ができる。
- 4 新生児から得られた検体の検査と解釈ができる。

## 一 産婦人科 一

## 産婦人科研修プログラム

### プログラムの目的と特徴

産科・婦人科学の基本的な診断、治療の知識および技術を習得する。女性を対象とする医療に対する医師としての社会的責任および役割を認識する。妊娠という生理学的環境下における種々の医学的变化や特殊性を理解する。

### 研修プログラム（1ヶ月）

#### 一般目標（G I O）

女性、母性、母児を対象とする産婦人科診療の実際を理解し、その診療の基本を習得する。産婦人科以外を専攻する医師にとって臨床上最低限必要と考えられる技能、知識を習得する。

- (1) 女性特有の疾患による救急医療を研修する。
- (2) 女性特有のプライマリケアを研修する。
- (3) 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。

#### 行動目標（S B O）

##### 産婦人科診察法

- (1) 産婦人科の病歴記載法を理解する。  
主訴、現病歴、月経歴、結婚・妊娠・分娩歴、家族歴、既往歴
- (2) 産婦人科診療における基本的技能を理解する。  
視診、触診、内診法、超音波診断法（経腹法・経膈法）

##### 産科

- (1) 生殖生理学の基本を理解する。
- (2) 胎児生理学の基本を理解する。
- (3) 妊娠の診断ができる。  
免疫学的診断法、超音波断層法
- (4) 正常な妊娠経過、分娩経過、産褥経過を理解する。
- (5) 正常新生児の生理を理解する。
- (6) 妊娠合併症、異常妊娠の診断、管理を理解する。
- (7) 分娩経過の異常、産褥経過の異常について理解する。
- (8) 妊娠、出産に関する母児のケアについて理解する。
- (9) 産科救急疾患の診断、治療に関して理解する。
- (10) 地域周産期医療の体制を理解する。

##### 婦人科

- (1) 女性の生理学、解剖学を理解する。
- (2) 婦人科における諸検査の意義、適応を理解する。
- (3) 良性疾患の診断、治療を理解する。
- (4) 悪性疾患の診断、治療を理解する。
- (5) 婦人科感染症、STDの診断、治療を理解する。
- (6) 婦人科救急疾患の鑑別診断、治療について理解する。
- (7) 内分泌疾患、不妊症の診断、治療について理解する。
- (8) 日本産科婦人科学会の生殖生理学に関する見解を理解する。

#### 研修プログラム (3ヶ月)

##### 一般目標 (GIO)

女性、母性、母児を対象とする産婦人科診療の実際を理解し、その診療の基本を習得する。産婦人科以外を専攻する医師にとって臨床上必要と考えられる技能、知識を習得する。

1. 女性特有の疾患による救急医療を研修する。
2. 女性特有のプライマリケアを研修する。
3. 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。

##### 行動目標 (SBO)

###### 産婦人科診察法

- (1) 産婦人科の病歴記載法を習得する。  
主訴、現病歴、月経歴、結婚・妊娠・分娩歴、家族歴、既往歴
- (2) 産婦人科診療における基本的技能を習得する。  
視診、触診、内診法、超音波診断法（経腹法・経膈法）

###### 産科

- (1) 生殖生理学の基本を理解する。
- (2) 胎児生理学の基本を理解する。
- (3) 妊娠の診断ができる。  
免疫学的診断法、超音波断層法
- (4) 妊娠初期の異常（流産、子宮外妊娠）の臨床的判断ができる。
- (5) 妊婦検診の役割、必要な検査の意義、適応を理解し、臨床的判断ができる。
- (6) 基本的な超音波検査の手技、胎児の計測法を理解できる。
- (7) 胎児well-beingの検査法、評価法について理解できる。

- (8) 指導者のもとで正常な妊娠経過、分娩経過、産褥経過を管理できる。
- (9) 正常新生児の生理を理解し、臨床的判断ができる。
- (10) 妊娠合併症、異常妊娠の病態生理を理解し、必要な検査、治療についての臨床的判断ができる。
  - 1) 妊娠中毒症の病態、診断、治療を理解する
  - 2) 胎児発育遅延について理解する
  - 3) 切迫早産の診断、治療について理解する
- (11) 産科手術の基本が理解できる。
- (12) 指導者のもとで分娩経過の異常、産褥経過の異常について診断、治療ができる。
- (13) 指導者のもとで妊娠、出産に関する母児のプライマリケアができる。
- (14) 指導者のもとで産科救急疾患の診断、治療ができる。
- (15) 地域周産期医療の体制を理解し、臨床的判断ができる。

#### 婦人科

- (1) 女性の生理学、解剖学を理解する。
- (2) 婦人科における諸検査の意義、適応を理解し、検査結果から臨床的判断ができる。
- (3) 指導者のもとで良性疾患の診断、治療ができる。
- (4) 悪性疾患の診断、治療を理解する。
  - 1) 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の診断が理解できる
  - 2) 手術法、化学療法、放射線療法の適応、方法が理解できる
  - 3) 指導者のもとに精神面を含め、全身管理ができる
- (5) 婦人科感染症、STDの診断、治療ができる。
- (6) 指導者のもとに婦人科救急疾患の鑑別診断、治療ができる。
- (7) 内分泌疾患、不妊症の診断、治療について理解する。
- (8) 女性の一生にわたるプライマリケアについて理解し、臨床的判断ができる。
  - 1) 更年期に起こりやすい婦人科疾患について理解し、臨床的判断ができる
  - 2) 骨粗鬆症について理解し、臨床的判断ができる
- (9) 医療法規、健康保険制度を理解する。
  - 1) 優生保護法、母性衛生関連の法規を理解する
  - 2) 日本産科婦人科学会の生殖生理学に関する見解を理解する
- (10) 健康保険制度を理解する。

## 研修プログラム（8～9ヶ月）

### 一般目標（G I O）

女性、母性、母児を対象とする産婦人科診療の実際を理解し、その診療の基本を習得する。主に産婦人科学の専攻を希望する医師にとって臨床上必要な基本技能、知識を習得する。

- (1) 女性特有の疾患による救急医療を研修する。
- (2) 女性特有のプライマリケアを研修する。
- (3) 妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修する。

### 行動目標（S B O）

#### 産婦人科診察法

- (1) 産婦人科の病歴記載法を習得する。  
主訴、現病歴、月経歴、結婚・妊娠・分娩歴、家族歴、既往歴
- (2) 産婦人科診療における基本的技能を習得する。  
視診、触診、内診法、超音波診断法（経腹法・経膣法）

#### 産科

- (1) 生殖生理学の基本を理解し説明できる。
- (2) 胎児生理学の基本を理解し説明できる。
- (3) 妊娠の診断ができる。  
免疫学的診断法、超音波断層法
- (4) 妊娠初期の異常（流産、子宮外妊娠）の臨床的診断、治療ができる。
- (5) 妊婦検診の役割、必要な検査の意義、適応を理解し、臨床的診断ができる。
- (6) 基本的な超音波検査の手技、胎児の計測ができる。
- (7) 胎児well-beingの検査法、評価法を理解し、判断できる。
- (8) 正常な妊娠経過、分娩経過、産褥経過を管理できる。
- (9) 正常新生児の生理を理解し、臨床的判断ができる。
- (10) 妊娠合併症、異常妊娠の病態生理を理解し、必要な検査、治療についての臨床的判断・診断ができる。
  - 1) 妊娠中毒症の病態を理解し、診断、治療計画が立てられる
  - 2) 胎児発育遅延について臨床的背景を理解し、治療計画が立てられる
  - 3) 切迫早産の診断、治療を行うことができる
- (11) 産科手術の基本を習得する。
- (12) 分娩経過の異常、産褥経過の異常について診断し、指導者のもとで治療ができる。

- 1) 産科出血の鑑別診断と治療ができる
- 2) 産科手術の適応について判断できる
- (13) 妊娠、出産に関する母児のプライマリケアができる。
- (14) 指導者のもとで産科救急疾患の診断、治療ができる。
- (15) 地域周産期医療の体制を理解し、臨床的判断ができる。

## 婦人科

- (1) 女性の生理学、解剖学を理解し説明できる。
- (2) 婦人科における諸検査の意義、適応を理解し、検査結果から臨床的判断ができる。
- (3) 指導者のもとで良性疾患の診断、治療ができる。
  - 1) 卵巣嚢腫
  - 2) 子宮筋腫、腺筋症
  - 3) 流産
- (4) 悪性疾患の診断、治療計画を立てられる。
  - 1) 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の診断ができる
  - 2) 手術法、化学療法、放射線療法の適応、方法について理解し、治療計画を立てられる
  - 3) 精神面を含め、全身管理ができる
- (5) 婦人科感染症、STDの診断、治療ができる。
- (6) 婦人科救急疾患の鑑別診断ができ指導者のもとで治療ができる。
  - 1) 急性腹症の診断  
子宮外妊娠、卵巣嚢種茎捻転、卵巣出血
  - 2) 腹痛を呈する疾患の診断  
子宮筋腫、子宮腺筋症、月経困難症、子宮内膜炎、子宮付属器炎、骨盤腹膜炎、など
- (7) 内分泌疾患、不妊症の診断、治療についての基本的技術を習得する。
  - 1) 基礎体温表の診断
  - 2) ホルモン検査・負荷テスト
  - 3) 卵管疎通検査
  - 4) 排卵誘発法
- (8) 女性の一生にわたるプライマリケアについて理解し、臨床的判断ができる。
  - 1) 更年期に起こりやすい婦人科疾患について理解し、臨床的判断ができる
  - 2) 骨粗鬆症について理解し、臨床的診断ができる
- (9) 医療法規、健康保険制度を理解する。

- 1) 優生保護法、母性衛生関連の法規を理解し説明できる
  - 2) 日本産科婦人科学会の生殖生理学に関する見解を理解し説明できる
- (10) 健康保険制度を理解し説明できる。

## 一精神神経科一

精神科臨床研修プログラム（1ヶ月用）

目的：医療者として必要な基本姿勢・態度の基本となる、患者・家族との適切なコミュニケーション、ニーズの理解、情報提供と治療法選択の援助などを、精神医学の視点から学ぶとともに、精神医療の初歩的知識、診断技術、治療法の概略について修得する。

G I O (General Instructional Objective):

患者・家族との適切なコミュニケーションの技術を身につける。

S B O (Specific Behavioral Objective):

1. 患者・家族のニーズを心理・身体・社会的側面から把握できる。
2. 医師・患者・家族がともに納得できる医療情報の提供や治療法の合意ができる。
3. 守秘義務を守り、プライバシーへの配慮ができる。
4. 治療に拒否的であるなど、精神症状のためにコミュニケーションが困難な患者を援助して、上記の3点ができる。
5. 患者・家族を生活する人として全人的に把握するために、日常生活についても情報を得ることができる。

G I O :

医療面接の能力を身につける。

S B O :

1. 患者・家族の不安や苦痛などの心理的側面に配慮しながら、面接を勧めることができる。
2. 患者・家族の解釈モデル、受診動機、医療への期待などを把握することができる。
3. 患者の病歴（主訴、既往歴、生活歴、現病歴）の聴取と記録ができる。
4. 必要な理学的所見をとることができる。
5. 家族やそのほかの関係者のニーズや支援能力を把握することができる。

G I O :

遭遇頻度の高い精神状態を把握し、適切な検査を行い、必要があれば専門医に紹介することができる。

S B O :

1. 抑うつ状態を把握できる。
2. 不安状態を把握できる。
3. せん妄状態をはじめとする軽度の意識混濁を把握できる。
4. 薬物やアルコールなどの中毒症状・離脱症状を把握できる。
5. 医療専門職との連携の障害を把握できる。
6. 不眠の原因を探り、必要な検査や対処ができる。

G I O :

精神医療の初歩的な知識を身につける。

S B O :

1. 基本的な精神医学用語を用いることができる。
2. 基本的な精神医学検査の適用を知り、指示を出すことができる。
3. 精神所見をカルテに記載することができる。
4. 薬物療法、精神療法、精神障害リハビリテーションの概要と適用を知って、指示を出すことができる。

G I O :

医療チームの構成員としての役割を理解し、治療チーム内での連携の技術を身につける。

S B O :

1. 指導医や専門医にコンサルテーションができる。
2. 医療・保健・福祉の幅広い他職種との情報交換と役割連携ができる。
3. 治療チームのメンバーとの適切なコミュニケーションを行うことができる。

G I O :

患者・家族との適切なコミュニケーションの技術を身につける。

S B O (Specific Behavioral Objective):

1. 患者・家族のニーズを心理・身体・社会的側面から把握できる。
2. 医師・患者・家族がともに納得できる医療情報の提供や治療法の合意ができる。
3. 守秘義務を守り、プライバシーへの配慮ができる。

4. 治療に拒否的であるなど、精神症状のためにコミュニケーションが困難な患者を援助して、上記の3点ができる。
5. 患者・家族を生活する人として全人的に把握するために、日常生活についても情報を得ることができる。

G I O :

医療面接の能力を身につける。

S B O :

1. 患者・家族の不安や苦痛などの心理的側面に配慮しながら、面接をすすめることができる。
2. 患者・家族の解釈モデル、受診動機、医療への期待などを把握することができる。
3. 患者の病歴（主訴、既往歴、生活歴、現病歴）の聴取と記録ができる。
4. 必要な理学的所見をとることができる。
5. 家族やそのほかの関係者のニーズや支援能力を把握することができる。

G I O :

遭遇頻度の高い精神状態を把握し、適切な検査を行い、必要があれば専門医に紹介することができる。

S B O :

1. 抑うつ状態を把握できる。
2. 不安状態を把握できる。
3. せん妄状態をはじめとする軽度の意識混濁を把握できる。
4. 薬物やアルコールなどの中毒症状・離脱症状を把握できる。
5. 医療専門職との連携の障害を把握できる。
6. 不眠の原因を探り、必要な検査や対処ができる。

精神科臨床研修プログラム（8ヶ月用）

目的：精神科医療の基本的な検査、診断および鑑別診断、治療について修得し、それに基づいて診療計画を作成することが可能となる。また他科との連携が可能な診療知識・技術を育成する。

G I O (General Instructional Objective) :

精神科の基本的な検査の適用、実施、検査結果の解釈ができる。

S B O (Specific Behavioral Objective) :

1. 脳波検査の適用を知り、判読し所見が記載できる。

2. 頭部の画像診断の適用を知り、読影ができる。
3. 主要な心理検査の適用を知り、検査することができ、結果を治療計画に利用できる。

G I O:

主要な精神障害の診断および鑑別診断ができる。

S B O:

1. 精神分裂病の診断ができる。
2. うつ病および躁鬱病の診断ができる。
3. 器質性精神病および症状精神病の診断ができる。
4. 老年期痴呆の診断ができる。
5. 神経症の診断ができる。
6. 人格障害の診断ができる。
7. てんかんの診断ができる。

G I O:

基本的な精神科治療を修得する。

S B O:

1. 精神療法の基本を知り、支持的精神療法を行うことができる。
2. 主要な精神障害の薬物療法を行うことができる。
3. デイケアなどの精神障害リハビリテーションの適用、実施方法、治療計画への組み入れができる。
4. さまざまな集団治療についての適用、実施方法、治療計画への組み入れができる。
5. 電気けいれん療法についての適用、実施方法、治療計画への組み入れができる。
6. 心理教育、認知行動療法など専門的な心理社会的治療について、適用、実施方法、治療計画への組み入れができる。
7. 精神保健福祉法の知識を習得する。

G I O:

診療計画を作成することができる。

S B O:

1. 診断、治療、患者・家族への説明などの診療計画を作成できる。
2. 入・退院の適応を判断できる。
3. 他の職種と連携して、ケアマネジメント、作業所などの保健・福祉サービスを利用すること

ができる。

4. 患者・家族のニーズやQOLに配慮して、計画を立てることができる。

G I O:

他科往診・リエゾンコンサルテーションや精神科救急を経験し、基礎知識を習得する。

S B O:

1. 身体疾患に伴い生じる精神症状について診断し、その治療を他科の医師と連携して実行できる。
2. 精神障害を持つ患者の身体疾患について、他科の医師と連携して、適切な診療計画をたて治療できる。
3. 精神科救急を経験し、緊急に必要な問診や検査を行うことができる。
4. 精神科救急で用いる処置について知り、薬物療法を行うことができる。

G I O:

チーム医療や臨床能力向上のために、症例呈示の方法を修得する。

S B O:

1. カンファランスに参加し、症例呈示と討論ができる。